

環境カウンセラー活動事例集



令和5年3月

環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室

目次

はじめに

01	仁保 めぐみ (兵庫県)	2
02	若松 伸司 (茨城県)	8
03	早野 木の美 (東京都)	12
04	吉迫 勝意 (高知県)	16
05	田中 純江 (東京都)	20
06	宇田 吉明 (大阪府)	24
07	富所 哲平 (群馬県)	28
08	中村 優理子 (愛媛県)	32
09	伊藤 和男 (兵庫県)	36
10	多賀 吉令 (岐阜県)	40
11	大沼 晴彦 (栃木県)	44

はじめに

環境カウンセラーは、「環境カウンセラー登録制度実施規定」(平成 8 年環境庁告 示 第 54 号)にもとづき、環境省が実施している登録制度です。

環境省では、市民活動や企業・団体の事業活動を通じて環境保全に関する取り組みに従事し、豊富な経験や専門知識を持つなど一定の要件を備える方で、地域の身近な環境専門家として環境カウンセリングを行う意欲のある方を毎年公募し、申請にもとづいて書類審査及び面接審査を行い、所定の基準を満たした方を環境大臣が「環境カウンセラー」として認定・登録しています。

この冊子では全国の環境カウンセラーから、事業者部門・市民部門での活動事例や環境カウンセラーがグループとして活動している事例を公募し、その中から優良事例を 11 件紹介しています。また編纂にあたっては、執筆者の原稿を元に掲載しておりますので、各原稿の項目番号などは統一しておりません。

SDGs の目標達成を目指す全国各地での環境保全活動などにおいて、環境カウンセラーを活用する際のヒントになれば幸いです。また、事例収集に当たり、ご協力を賜りました環境カウンセラーの皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月



環境カウンセラー活動事例紹介 01

兵庫県

仁保 めぐみ

私の事業者部門での活動を紹介します

有限会社エビオ（産業廃棄物収集運搬業〔特管含む。優良認定業者〕・貨物運送事業）代表取締役社長。NPO 法人環境カウンセラー会ひょうご理事長。NPO 法人環境カウンセラー全国連合会理事。自身の豊富な経験から、事業者や市民に対し、あらゆる廃棄物の相談および適正処理の啓蒙活動をおこなっています。廃棄物に関する講演活動を数多くこなしている実績が評価され、小泉環境大臣（当時）より第2回環境カウンセラー環境保全活動「循環型社会貢献賞」の表彰をいただきました。

「産業廃棄物」を扱う仕事とは。

私の会社は産業廃棄物の収集運搬の業務を行っておりますが、処分の相談窓口も行っているため、産業廃棄物に関するあらゆる知識が必要とされています。

許可の範囲だけでも「燃え殻」「汚泥」「廃油」「廃酸」「廃アルカリ」「廃プラスチック類」「ゴムくず」「金属くず」「ガラスくず」「鋳さい」「がれき類」「ばいじん」「紙くず」「木くず」「繊維くず」「動植物性残さ」「感染性産業廃棄物」「廃水銀等」「廃石綿等」それぞれの排出工程の把握、扱い方、処分の仕方など、毎日のように排出事業者様から相談を受け、どういった処理を望んでおられるのか、分別の有無、値段、リサイクル率等、現場調査もしながら「ベストな提案」をすることが日課となっています。



相談の例：断熱材が巻き付いているダクトを捨てたい。現場での分別はおこなわないという。

そういった提案活動では、新人の担当者様を相手にすることも多く、「廃棄物のことをよくわかっていない人」に対して私の提案をどう理解していただくか、その人の理解が不十分だ

と、社内で説明ができず、課題となっている廃棄物が「課題のままでは終わってしまう」＝「適正処理できない」「法違反での処理」という事態を生みかねないと危惧し、口答での説明に加え、必ず図や写真を使った「処理フロー」を作成して理解を深めていただく策をとっています。

廃棄物に関することは、書籍やインターネットだけでは理解が深まりません。そのうえ廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下、「廃棄物処理法」という）は非常に難解な上に処罰も厳しく、誰しもが知らずのうちに違反している可能性もあるという厄介なものです。違反すると会社も信用を無くし、仕事がなくなる、従業員の離職、廃業への道ということにもなりかねません。企業の廃業は日本経済にとっても大きな痛手となります。

そういったリスクを回避するためにも、廃棄物のことについて気軽に相談できる環境の専門家の存在が必要です。

私は廃棄物専門の環境カウンセラーです。以下にいままで活動してきた事例を挙げていきたいと思います。

突然の事業承継とともに廃棄物業界へ。

こんな私も、もともとは廃棄物のことを何も知らないド素人でした。

20年ほど前、私は突然父に呼ばれてこの会社に来ました。呼ばれた理由は、その頃代表者だった父がガンに侵され、余命がない状態だったためです。自分が亡き後の会社を心配してのこと、私は「営業部署」所属になりました。

営業をおこなうには、廃棄物に関する知識を付けないといけません。プロフェッショナルな父の教えを請いたかったのですが、父は咽喉がんで、声帯を全部摘出したため、廃棄物に関することを教えてもらおうと思っても、父からは教えてもらうことができませんでした。

そのような中で、日々、お取引先様から呼ばれ、相談にのらなければいけなかった私は、早急に知識と現場力を身につけなければなりません。すすんで廃棄物の現場にも入り、3K（きつい・汚い・危険）の作業をしたり、同業社を訪ね、わかるまで聴く、書籍を買い込むなど、猛勉強したりしました。



※廃棄物の山を崩し、土とゴミの分別作業をしているところ（この中からバイクも出てきた）

ある会社に営業で行った時のこと、「女性のアナタに何ができるんですか？」と揶揄されたことがとてもくやしくて、環境大臣の認定である「環境カウンセラー」なら信用をおいてくれるのでは！という思いから、事業者部門・市民部門の両部門に申請、同時に取得できたことから現在に至っています。

環境カウンセラー≠環境評論家。

環境カウンセラーを取得してすぐ、「NPO法人環境カウンセラー会ひょうご」に入会したことがきっかけで、エコアクションの審査人に向けた「廃棄物処理法の基礎」というセミナーの講師を務めることになりました。そこから活動の場が広がり、全国各地の行政から講演依頼がくるようになりました。

行政から依頼をいただいた時、まず私がすることは、その県（市など）の廃棄物に関する条例はどんなものがあるのか調べることです。これを理解していないと、話が間違った方向に行き、講演が成立しません。また依頼元の目的も理解し、どんなことを話せばいいのか綿密にやりとりしていないと、意味のない講演になってしまいます。少なくとも私にくる「講演の依頼」については、環境評論家のような独自の知識を述べることを求められているものではなく、依頼元である行政に寄り添ってじっくり声を聴く、行政から聴講者に伝えたいことは何か？方向性の共有、そのためにどんな資料を作り、話せばいいか？など、環境カウンセラーとしての役割が求められているように思っています。依頼元が行政でなくても、そのようなコミュニケーションが大切だと思っています。



※兵庫県西宮市からの依頼「廃棄物 Q&A」企画

3と4の公倍数にこだわる。

講演が決まれば資料を作ります。私は、パワーポイントで資料を作るとき、ページは「3と4の公倍数にする」と決めています。その理由は明確で、資料が配布される時、だいたい1枚あたり、3コマ・4コマ・6コマにページが集約されていることが多いからです。資料を3と4の公倍数にしておくと、印刷したときに無駄なページができにくいという点が気に入っています。

使う用語についても、調べないとわからない言葉や略語は極力使わないようにし、誰もがとつきやすい資料作りを心掛けています。

77%にこだわる。

外部で受ける研修の時間配分は講師によって違います。資格取得など受講時間が決まっている研修は別として、一般的な講演は、時間内にまとめることが基本中の基本です。時間配分を間違えて、前の方で時間を取りすぎたために最後、早口で残りのスライドを解説したり、割愛したり、時間を超過したりすることは、せっかくいい講演をしても減点材料になってしまいます。私も時間配分には一番気を使うところです。

私の講演はたいてい「90分でお願いします」と言われるのですが、あえて、持ち時間を77%と自分で設定していて（90分なら約70分）余裕を持った進め方をしています。

具体的な活動例①：講演「お騒がせ！廃棄物問題」

講演を受託する際「お任せで」と言われることがあります。私は、そういう場合は必ず「お騒がせ！廃棄物問題」というタイトルでお話することにしています。



※「お騒がせ！廃棄物問題」の講演風景

内容は最近の廃棄物に関するニュースを取り上げて解説するものなので、事業者、市民どちらが対象でも資料が作りやすく、興味を持ってもらいやすい内容にすることができます。

例えば、何年か前に「人気アイドルのCDの付録である握手券が欲しいがゆえに、握手券だけ取った後、CDを何百枚も山に捨てた（不法投棄事件）」というニュースがありました。

「なぜこういうことが起こったか？（社会的背景）」「この心理に共感できる場所は？（問題点）」「自分だったらどうするか？（モラルと順法意識）」など、聴講者にいったん考えていただけるようながします。この場合の「社会的背景」というのは、「アイドルの存在」

「販売方法」「製造者や販売者による大量廃棄の予測」などで、「問題点」というのは「正しい捨て方を知っていたのだろうか？」ということ、その上で「モラルと順法意識」を再認識する時間としていただきます。

ワークができるような規模の講演だったら、聴講者を班に分け、それぞれの回答を紙に書いて班で発表していただくなどにも展開できます。ニュースの題材を年齢に合わせれば、小学校高学年～大人までこなせるワークであり、実際にある大学の授業でこの企画をさせていただいたことがあります。 「どんな社会にしていけばいいのか」といった話の広がりがある力

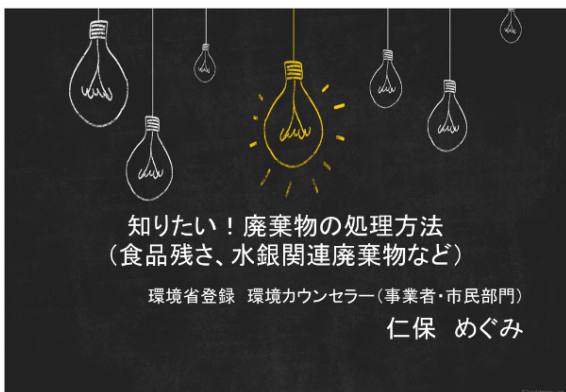
となって、奥深いものになりました。環境問題を身近に考えるきっかけ作りも環境カウンセラーとしての重要な役割と実感しています。

なお、先ほどのニュースは少し前のニュースのため、現在であれば、プラスチックのリサイクル方法や有効利用についての話も出てくるのではないかと考えます。

具体的な活動例②：講演「法改正」

廃棄物処理法は軽微なものも含めると毎年のように改正されています。その都度、企業も意識を変えていかないと先ほども書きました通り、「知らずのうちに法違反」していることにもなりかねません。よって、そのタイミングでの講演依頼をいただくことがあります。

今まで扱った題材は、「廃棄物の定義：有価物か廃棄物か」「建設工事に伴い生ずる廃棄物の処理責任の元請業者への一元化」「家電リサイクル法」「小型家電リサイクル法」「フロン排出抑制法」「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」など。法改正の経緯、法改正の内容、事業者が守らないとどうなるかなど具体例をあげて丁寧に解説し、理解を深めていただけるよう努めています。



※水銀廃棄物ガイドライン及び食品廃棄物の講演資料

一度聞いただけではなかなか理解が深まらない難しいテーマではありますが、その分、聴講者の数も多く、必死にメモを取ってくださる姿も見受けられます。廃棄物に関する質問はなかなか表立って言いにくいこともあることから、その場の質疑応答とはせず、質問は別途集めて、後日、依頼元を通して個別に回答させていただくこともあります。

そういった事業者向けの講演には「委託先の探し方」「廃棄物処分業者工場見学用チェックリスト作成」「WDS作成」「 Manifestoの記載方法」「事業系一般廃棄物の減量と分別の徹底」「サーキュラー・エコノミーの他社事例」といった題材も盛り込み、実務に携わる人が参考にできるような役立つ話を提供することを心がけております。

2. 事業所のごみ問題と法律の関係

**廃棄物を委託している
廃棄物処理会社の
把握 (処分会社・
収集運搬会社)**

**チェックリストを用い、
適正処理しているか
現地確認する**

排出事業者責任！

事業所ごみ問題と法律の関係		確認項目	
項目	内容	確認	備考
1	委託先(処分会社・収集運搬会社)の把握		
2	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の確認		
3	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
4	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
5	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
6	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
7	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
8	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
9	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		
10	委託先(処分会社・収集運搬会社)の適正処理の現地確認		

環境カウンセラー 仁保 めぐみ 23

※廃棄物の会社に訪問する際のチェックリスト例

具体的な活動例③：講演「市民向け編」

市民向けでは「無許可の回収業者の問題点～一枚のチラシから法違反を読み取る(犯罪に巻き込まれないために)」 「食品廃棄物を減量するには(消費行動の見直し)」など生活を送る上で役に立つ内容を話すことを心がけています。

大学からの依頼として「環境問題の伝え方やカウンセリングの技術」「女性が活躍できる時代に～環境系の仕事～」など、人材育成に関するものもあります。



※食品廃棄物を減量するには？

具体的な活動例④：廃棄物なんでも相談

環境カウンセラーとして講演以外の活動に「廃棄物なんでも相談」があります。質問者はたいてい「市役所」や「産業資源循環協会」に聞いてお電話くださり、内容は処理困難物の相談が多いです。

例えば、Aさんの例

「市民です。夏休みのこどもの工作に石鹼を作ったので苛性ソーダが余った。市に電話したら取れないと言われた。どうやって廃棄すればいいか」

Bさんの例

「市民です。人形を廃棄したい。でもバチが当たりそう。どうやって廃棄すればいいか」

Cさんの例「事業者です。市の条例が変わって今まで一般廃棄物で出せていたものが出せなくなった。缶・瓶・ペットボトルなどどうしたらよいか」

Dさんの例

「古い機械を処分しようと思うのだが、中に廃石綿が入っているか調べてほしい」

Eさんの例

「廃棄物処理に関する施設を出す計画がある。法律に抵触しないかどうか仕様書のみてほしい。」

すべて昨年の相談内容ですが、それぞれ調べるところは調べて、親身に相談にのりました。



※リモートを用いて回答している様子

Aさんに関しては、苛性ソーダの数量が少ないとのことだったので、多めの水で希釈していただいて掃除に使用してもらおうとお伝えしました。

Bさんに関しては、市が収集する一般ごみ（可燃）でも廃棄できるのですが、「バチが当たる」とおっしゃったので、お祓いしていただくお寺を紹介しました。

Cについては産業廃棄物にあたるため、仕事として実行できるのですが、資源として動かせるリサイクルルートをお伝えし、「自己運搬（法律順守の上）」で運用したらどうかとお話ししました。

Dについては現地調査に伺い、試料を採取した後、分析（有料）をかけさせていただき、その後、費用ができるだけかからない廃棄方法（分別の方法）をお伝えしました。



※Dさんの会社の機械を確認しているところ

相談業務は基本無償でさせていただいています。みなさんがどんなことで悩んでおられるのか、私自身の勉強にもなっております。

今後の環境カウンセラー活動

今まで捨てられていたものが資源に生まれ変わる取り組みが全国で急速に進められており、廃棄物の動向を重視しています。

先日うかがいました福井県の講演でも、聴講者から具体的な廃棄物の名前とともに「リサイクルできませんか？」という質問を多数いただくなど、きめ細やかなフォローが必要でした。社会の需要、要求に応えられる環境カウンセラーとして今後も最新の情報に注目し、研鑽していきたいと思ひます。



※産廃処理の総合専門誌の表紙モデル



※ディスカッションのパネラー出演



環境カウンセラー活動事例紹介 02

茨城県

若松 伸司

私の環境カウンセラーグループでの活動を紹介します

財団の紹介 | 事業紹介 | セミナー・イベント | 会員限定 | 情報発信・コミュニケーション | お問い合わせ | アクセス | ホーム

わたしたちは水や食べ物は選ぶことはできるが、空気は選ぶことができない。

蒼き星・地球

「将来世代に優しい社会・環境を」

INFORMATION
インフォメーション

セミナー開催情報

大気環境関連の研究・教育活動を、地方自治体研究所、大学、国立研究所、米国などにて50年以上にわたり行って来ました。

1970年に日本で初めて光化学スモッグによると考えられる被害が発生して以来、生成機構解明のためのフィールド観測、モデル解析を中心に調査・研究を実施しています。また途上国環境対策支援にも取り組んでいます。

2016年に環境カウンセラーとなり、2017年に、大気環境学会のOBや環境カウンセラーを核として一般財団法人大気環境総合センターを設立し、全国規模の活動を推進しております。

1.活動のフィールドや立場

地域と地球の大気環境改善を目的として、大気環境分野の研究成果や技術の継承・普及・啓蒙活動、ならびに最新の情報提供を行うために、環境カウンセラー活動の一環として、2017年に一般財団法人・大気環境総合センター（IIAE: Institute of Integrated Atmospheric Environment）を設立し活動を継続実施しています。

IIAEの現在の代表理事は若松伸司（環境カウンセラー・市民部門 2016～茨城県）、評議員は森淳子（環境カウンセラー・市民部門 1996～長崎県、2021年からはIIAE研究員）、川東光三（環境カウンセラー・事業部門 2000～東京都）、加来秀典（カウンセラー・事業部門 2001～東京都）、ほかであります。

IIAE活動の第一の目的は、公害対策時代に培った知識や技術の継承であり、この中で特に退職した研究者や技術者の活躍を図ることです。

この目的の為にリタイアされた多くの方々に、ご講演戴き講演資料をアーカイブ（記録、保存、活用）しています。セミナーで得られる情報は若い研究者や技術者にとって有用であると共に途上国における環境対策支援を行うに当たってのテキストとして役に立つと考えております。

2017年に定期セミナーを開始しました。最初は、基本的なテーマを取り上げ、ガス状大気汚染物質概論、粒子状大気汚染物質概論、酸性雨概論、大気汚染発生源概論、大気汚染気象、大気放射に関するセミナーを実施しました。

2018年には、大気粒子組成、大気粒子動態、PM2.5生成機構、PM2.5凝縮性粒子、光化学オゾン生成機構、大気汚染発生源、揮発性有機物質、光化学オゾン立体分布、モデリングと解析、都市環境アセスメント、沿道大気環境アセスメント、都市・広域大気モデリング、国内外の大気動態、環境国際協力、環境行政、エネルギーと大気環境、大気汚染物質、PAH、風力発電アセスメント、光化学OXモニタリング、PM2.5の捕集と分析に関する定期セミナーを、月2回の頻度で実施しました。

2019年には、VOCs計測、固定発生源、局地気象観測、VOCs環境動態、SPM・PM2.5の環境動態解析、大気汚染と局地気象、大気放射観測・放射収支、大気汚染モデル・発生源寄与解析、大気汚染観測とモデル解析、自動車発生源
道路交通情勢調査、アジアと日本の発生源・大気動態、途上国・自動車、個人暴露評価、熱中症・ヒートアイランド、大気汚染の植物影響
大気中放射性物質に関するセミナーを月2回の頻度で行いました。

2020年は、新型コロナ禍で活動休止でした。

2021年からリモートで再開し、VOCs分析、東京都におけるVOCsトレンド、疫学評価、JCAP/JATOP研究（自動車業界と石油業界の連携）、東京都における自動車大気汚染対策、凝縮性粒子測定、化学輸送モデルの進展、個人暴露評価、化学輸送モデル・CTM解析事例、名古屋市の大気汚染トレンド、PM2.5の指標化学成分、日本全国のPM2.5化学成分、地域大気汚染の動態解析、エアロゾルの生成過程と測定に関するセミナーを実施しました。

2022年は、＜Atmosphere 誌に掲載された研究論文紹介＞として、日本の大気汚染トレンド論文の紹介、川崎市におけるOXトレンド論文の紹介、VOCsに関する基礎・測定・環境動態の、名古屋市の2編の研究論文紹介、PAH論文紹介、自動車関連の大気環境・健康影響レビューの紹介等を実施しました。

また研究成果の社会実装を目的として、環境省が実施している環境研究総合推進費での研究成果や環境再生保全機構（ERCA）による環境研究成果に関するセミナーを行っています。

2022年11月から定期セミナーにて、環境省環境研究総合推進費研究の紹介と研究成果の社会実装を目指してのセミナーを現在も継続実施中です。

IIAE活動の第二の目的は最新の環境問題に関する情報提供と活用であります。この目的の為に特別セミナーを企画実施しています。

特別セミナーとして、
2019年1月：マイクロプラスチック問題

2019年10月：大気汚染測定の最前線
 2019年11月：化学物質と大気環境
 2019年12月：エネルギーと大気環境
 2021年4月：未知のPM2.5発生源
 2022年1月：大気中マイクロプラスチック問題（概論）
 2022年2月：PM2.5の健康影響
 2022年3月：カーボンニュートラルに向けた我が国のエネルギー政策
 2022年4月：大気中のマイクロプラスチック問題（最新の測定方法を中心として）
 2022年5月：富士山頂での観測紹介：『NPO法人富士山測候所を活用する会』との共催
 2022年6月：環境再生保全機構（ERCA）による研究紹介等を行い、現在も継続実施中です。

これと共に、研究論文等の作成支援を行っています。具体的には国際学術誌 Atmosphere への投稿への支援等を実施しました。

セミナー実施風景（新型コロナ禍以前）

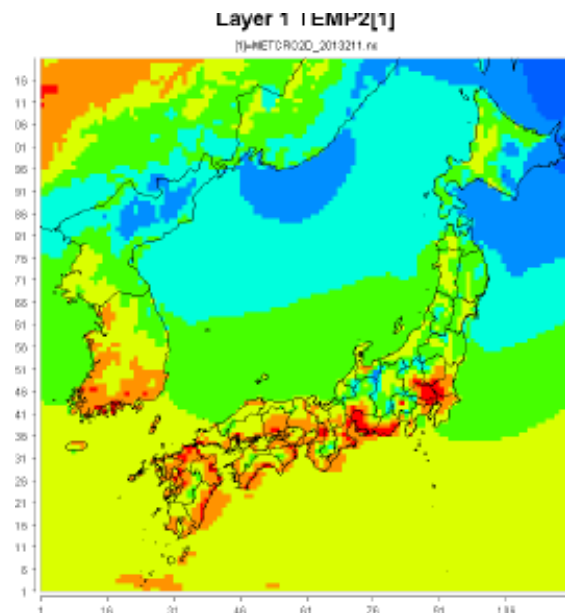


大気汚染化学輸送モデル(CMAQ)に関する講習会・トレーニングも実施しています。

初心者の方を中心に、これまでに延べ140名以上の方々が受講されました。

Webセミナー「CMAQの使い方」の内容

<p>第1回 CMAQのコンパイル 都市大気における化学反応のモデル化 CMAQのダウンロード CMAQのフォルダ構造 ライブラリの作成 (setCDF, IO API, OpenMP) (gfortran, PGI) bcon, icon, mcap, ccm3のコンパイル bcon, iconの実行 作図ソフト(Stash)の使い方 Fortranについて 質疑応答</p> <p>第2回 モデル領域の設定 setCDFファイルの扱い 緯度経度とxy座標(Lambert)の関係 (gfortran) モデル領域の設定(水平方向の格子配置) mcapの実行 作図ソフト(GMAT)の使い方 演習時に最も近い格子点の探し方 WRF/CMAQの格子点を作成する(M-grid) WRFの格子配置(WRF U-gridとV-grid) QGISによる都道府県の境界線(shape file)の作成 質疑応答</p>	<p>第3回 CMAQの実行 排出量データ(REAS)について 排出量データ(OCEAN)について 排出量データの編集(IO API) ccm3の実行 PM2.5の計算(Combaseのコンパイル実行、gfortran) 作図ソフト(Panoply, IDV)の使い方 質疑応答</p> <p>第4回 CMAQのnesting計算とWRFのコンパイルと実行 mcapのコンパイル実行 bcon/iconのコンパイル実行 CMAQv5.3.3のコンパイル実行 WRFのコンパイル実行 FNL-SSTデータのダウンロード 質疑応答</p> <p>CMAQv5.2.1 Operational Guidance Document https://github.com/USEPA/CMAQ/blob/5.2.1/DOCS/User_Manual/README.md</p>
--	---



モデル計算結果例

2.活動の連携先や依頼先

連絡先、依頼先：一般財団法人・大気環境総合センター（IIAE: Institute of Integrated Atmospheric Environment）

<https://iaae.or.jp>

上記、HPにてセミナー参加登録等をお受けしております。

info@iaae.or.jp

どのような事でも、上記アドレス宛、お気軽にメール願います。

住所：〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目2-8 後楽1丁目ビル
一般財団法人 大気環境総合センター事務局

電話：03-6801-6082

Fax：03-6801-6803

連携先：環境省、国立環境研究所、環境再生保全機構と連携して、主に研究成果の活用に向けての活動を行っています。

『認定NPO法人富士測候所を活用する会』と連携して、共催での特別セミナーの開催を行いました。

令和4年 **IIAE**



**IIAE大気環境総合センター特別セミナー
「富士山頂での大気観測の歴史と研究成果」**

主催：一般財団法人大気環境総合センター
共催：認定NPO法人富士測候所を活用する会
日時：2022年5月17日（火）13：30-15：00（13：00～受付開始）
場所：ZOOMによるオンライン開催

プログラム（敬称略）：
開会ご挨拶 若松伸司（愛媛大学名誉教授）
13：30～13：45 土器屋由紀子（江戸川大学名誉教授、NPO理事）
「富士山頂での大気観測の歴史と現状」
13：45～14：10 野村渉平（国立環境研究所）
「富士山頂での大気中CO2濃度観測とその成果」
14：10～14：35 鴨川 仁（静岡県立大、NPO専務理事）
「富士山だからこそできる雷の多角的研究」
14：35～14：55 加藤俊吾（東京都立大学准教授、NPO理事）
「富士山での火山性ガスモニタリング」
14：55～15：00 総合討論 横田久司（IIAE研究員、NPO東京事務所長）
閉会のご挨拶 若松伸司（愛媛大学名誉教授）

参加費：一般 3000円、セミナー会員 1000円、賛助会員 無料

要事前登録
5月16日（月）
締切

下記サイトから事前登録をお願いします。
登録された方には後日ZoomのURLをお知らせします。
https://iaae.or.jp/seminarlist/special_seminar/
問合せ：IIAE大気環境総合センター 事務局
TEL 03-6801-6082 Mail: info@iaae.or.jp



今後とも、国、地方自治体、NPOなど、様々な組織や機関との連携・協力を深めていきたいと考えております。

3.カウンセリングの対象者

各種セミナーや講習・研修を通じての、環境カウンセリングの対象者は、環境コンサルタント職員、国・自治体の職員、大学教員・学生、一般市民です。個別的な講習や研修も行っています。今後、特に皆さまへの情報提供が出来る

ようにしていきたいと思っております。また、これまでに。国立研究所機関や、地方自治体、業界団体等へのコンサルタント業務も行って参りました。

4.活動の方法やその特徴

活動実施形態はセミナー活動を中心とし他にも講習会やHPによる各種啓蒙活動を行っています。

2020年はCOVID-19 コロナ禍で対面での活動が出来なくなり、セミナー活動を延期しておりましたが2021年からはWEBによるリモート開催を開始し、広く全国に活動を展開しています。その結果、それまで以上に多くの皆さまに、賛助会員やセミナー会員になって戴き、活動が活発化しました。

5.その他のカウンセラー活動として紹介したいもの

地域の気象環境問題と地球規模の気象環境問題の関連性を検討するために、IIAE内に「自動車・エネルギーワーキンググループ」を設け、交通・物流・エネルギー・気候変動に関する総合的な議論を行っています。

当面は、情報収集、関係者へのヒアリング等を実施しておりますが、調査・検討結果は、2023年6月以降、特別セミナーやワークショップなどの形で公開・討論したいと考えております。

定期セミナー、特別セミナーの情報は全てアーカイブし、リクエストに応じて、いつでも必要に応じて活用出来る状態にあります。

IIAEではセミナー講師のプロフィールをHPに掲載しており、講師とのコンタクトの仲介も行っております。

現在（2023年1月の時点で）66名の講師のプロフィールが掲載されています。

多くの研究者や技術者と連携して、情報提供や技術支援等が出来る体勢を整えております。

環境カウンセラー活動事例紹介 03



東京都

早野 木の美

私の市民部門での活動を紹介します

大学の家政学部を卒業後、経済企画庁の物価局物価政策課を経て、現在も消費生活センターで消費生活相談員をしています。環境カウンセラーの資格を取得後、仕事を継続しながら大学の法学部でリスキング。法学博士号を取得後は、東海大学で環境カウンセラー講座、関東学院大学や東京家政学院大学でも消費者関連の講義を受け持ち、エシカル消費など環境と消費者問題を関連付けて講義をしています。2007年から10年間、目黒区の環境審議会副会長を務めました。また、東京都の消費者啓発員として各地で消費者向けの講座を行っています。

もくじ

1. 布への愛着が環境問題の取り組みの機会に
2. 神奈川県環境科学センターの人材育成事業
3. 消費者教育と環境教育の融合
4. 環境審議会と商店街の協働取り組みの結果
5. 仲間と取組んだ大学のカウンセラー講座
6. 環境カウンセラーネットワーク拡大のため

1. 布への愛着が環境問題の取組の機会に

私の母は昭和1桁世代。世界大戦を経て、物のない時代を経ただけに「もったいない」を旨とする人でした。私の洋服は全て母の手作りであったことから、成人してからも、丁寧に縫製された服を手放すことに心が痛みました。

そんな折、神奈川県平塚市の環境論文募集の記事に目が留まり、布のリサイクルの重要性を訴えたところ、優秀賞を受賞しました。その後、市の環境懇話会委員になりました。

神奈川県の秦野市には古繊維（ぼろ）のリサイクル工場で有名なナカノ株式会社があります。私は消費生活センターの講座講師として、リサイクル工場の見学会や消費者展の企画を行いました。



国内で回収される衣料品の9割は焼却される現実を消費者に知っていただきたいとの思いが、私のエシカル消費活動の原点になっています。

2. 神奈川県環境科学センターの人材育成事業

神奈川県の平塚市にある環境科学センターでは県下で環境問題を解決するために地域で核になる人材を育成するために「環境学習リーダー養成講座」を開設していました。私は第6期生として講座を修了しました。当時、二酸化炭素の削減にケナフという植物が役立つと言われていました。平塚市にある神奈川大学の理学部で釜野徳明教授がケナフの研究を重ねておられました。私はケナフの特性を学ぶために教授の研究室へ通い、神奈川県の環境科学センターの実

験敷地で県の職員や環境学習リーダーの修了者と一緒にケナフを育成しました。

ケナフは4月に種を蒔きます。雑草に弱いので、ケナフ素材の生分解性養生シートを使用しました。7月になるとケナフは3メートルほどにも伸び、黄色い可憐な花をつけます。8月になると夏休み親子環境教室を開催しました。紙漉きの方法は、ケナフを刈り取り、皮を剥がし、叩き、煮て繊維を取り出します。そして、従来の楮和紙の紙漉きと同じやり方で紙漉きを行いました。

当時は、多くの小中学校でケナフを育てていたことから、ケナフを使った環境教室や自治体が開催する環境展で紙漉きの講座を行いました。生徒が自ら育てたケナフから紙を作る過程は、単に紙資源を大切にしたいという気持ちだけでなく、楮を使用した和紙の歴史や文化を学ぶことになり、ケナフ紙で団扇や行灯などを作成させました。

タイ国の農林水産省から十種類のケナフの種を分けていただき、環境科学センターの敷地で仲間たちと育てたこともあります。ケナフの原点を求め、タイ国にあるコンケン大学の研究室を訪問しました。タイ王室のガーデンでは、日本の和紙の紙漉きが行われ、南国の色鮮やかな花びらが漉き込まれていました。ケナフによる両国の繋がりを感じたひと時でした。

3 環境教育と消費者教育の融合

消費者教育の中に環境教育を導入する動きが出てきました。神奈川県民部消費生活課から「いま・できるんだ 私たち・みんな・消費者」と題する中学生向けの冊子の執筆依頼がありました。環境学習リーダー会で学習した要素を導入したところ、次に、教師向けの解説書の執筆も依頼されました。

冊子を使い、教員向け研修を行っていた頃に環境カウンセラーのことを知りました。取得後は、かながわ環境カウンセラー協議会に所属し、環境教育を担う方々と連携して、様々なイベントに参加しネットワークを広げていきました。環境教育冊子の執筆は10年以上続きましたが、教員が求める環境教育のワークショップの提案には会員との交流が大変役立ちました。

協議会は、地域で幾つかの支部に分かれ、各支部会では定例会の開催や自然観察会などを

行ってきました。下の写真はケナフの紙漉きを中学生に教えているところです。



4 環境審議会と商店街の協働取組みの結果

東京に転居したところ、目黒区の環境審議会委員の募集が行われていたので応募し、採用されました。最初の年は公募委員でしたが、その後、副会長に推薦されました。審議会在籍中に行ったことの一つに人材育成講座があります。

既に区には2つのリサイクルセンターがありましたが、イベントのみが開催され、人材を育成するシステムはできていませんでした。そこで環境教育を行う人材を輩出する仕組みを構築しました。

区には自由が丘商店街という有名な商店街があります。環境と経済の両立を図ろうとする商店街の方々が生み出した技を学ぶべく、商店街の環境活動に関与した方を専門委員にお願いしました。核となる自由が丘商店街振興組合は、商業活性化事業や独自のゴミ回収事業、土日の午後やイベントでの清掃作業を行うガスターズの存在があります。生み出された様々な工夫を区全体にも生かせるように工夫しました。

最終的には自治体、商店街、環境教育の修了者達が連携をして、東京大学でシンポジウムを開催しました。その後、毎年、環境教育を行う人材を輩出し、目黒区では十数年にわたり多くの環境講座の修了者を輩出するに至りました。

5. 仲間と取り組んだ環境カウンセラー講座

私が環境懇話会委員を務めていた時、地区の行政センターの所長であった野間紀之氏は環境カウンセラーとしても活躍されていました。その後、東海大学の教養学部人間環境学科で環境カウンセラー講座の講師を務められました。

2010年、野間氏より環境カウンセラー講座の引継ぎを打診され、引き受けました。最初の5年間は、環境カウンセラーの資格を取得するために必要な要素の講義を行いました。環境カウンセラー協議会の会員にも協力を求め、里山歩きや川の観察会など、各自が得意とする分野で話をしてもらいました。

大学の授業は半年間で15回の講義を行います。私は講義の最終回では学生にプレゼンテーションをさせました。発表時には、環境カウンセラー協議会の会員に大学へ来てもらい、学生との意見交換会等も行いました。

私は、学生が環境カウンセラーの資格を在学中に取得するのは、経験年数から難しいことに気がつきました。学生はクラブやサークルに属し、週末には大会などもあり、環境NPO活動に専念するのが難しい学生がいることも分かりました。しかし、学生達の環境について学びたいと思う強い気持ちを何とか資格に結びつけることができないかと考えました。既にながわ環境カウンセラー協議会では環境教育インストラクター認定講座を土日の2日間で開催していました。しかし、大学は土曜日に授業があるので学生は協議会の講座には出席できません。

そこで、学部長の藤野裕弘教授に相談し、東海大学版の環境教育インストラクター認定講座を開設することにしました。ながわ環境カウンセラー協議会も講師を派遣してくれるということになり、新しい一歩を踏み出しました。

その内容は、環境教育インストラクター認定講座の講義を4日間聴講する。大学で実施する郊外実習を2回以上体験する。プレゼンテーションを行う。そして、環境カウンセラー講座を東海大学に開設したときから、同時に立ち上げている「NPO法人東海ネット」に所属し、地元と一緒に地域活動を行うことを要件としました。

2017年度に第1回目の環境教育インストラクター認定講座を開催し、既に2022年度も第6回目の環境教育インストラクター認定講座を継続して開催することができました。

講師の選定にあたっては、第1回目の開催では、当時NPO法人環境カウンセラー全国連合会理事長の佐々木進市氏から環境省の方を紹介していただきました。また、ながわ環境カウンセラー協議会からは、神奈川県環境政策課の方を紹介していただきました。当時、大学に

は環境省や神奈川県の間立ち、繋ぎの役割を果たす人材が不足していました。環境カウンセラー協議会が行政と教育機関の連携の要となったのです。

環境教育インストラクター認定講座を実施するにあたり、私の所属する教養学部の学生だけに限定せずに、環境の話を知りたいと思っている学生にも門戸を開くことにしました。

当講座の開催をするにあたり、立て看板を5種類作成しました。1種類目は環境教育インストラクター認定制度の全体の案内。2種類目からは、開催日毎に講座の演目と講師名を掲載し、キャンパス内に数カ所設置しました。



看板の効果で理学部、社会学部、健康学部など環境

学部以外の学生が聴講しました。

2017年度、第1回目の環境教育インストラクター認定公開講座を4日間開催しました。第1日は、NPO法人環境カウンセラー全国連合会理事長の佐々木進市氏より「環境教育インストラクターとESD」、環境省関東地方環境事務所環境対策課の佐々木渉氏から「環境教育行政の動向について」の講演がありました。2日目は、神奈川県環境農政局環境部環境計画課の塚本俊治氏から「神奈川県における環境行政と環境教育について」、NPO法人ながわ環境カウンセラー協議会の理事長の河野健三氏から「環境教育と環境経営で人材育成をめざすながわ環境カウンセラー協議会の取り組み」の講演がありました。3日目は、NPO法人ながわ環境カウンセラー協議会の会員の嶋田和夫氏から「環境教育の場と安全対策」を、私が「環境教育概論」の話をしました。4日目は、NPO法人東海ネットの理事で環境カウンセラーでもある野間紀之先生に「NPOの活動とNPO法人東

海ネットの役割」の講演をしていただき、私が環境教育インストラクター申請手続き方法の説明を行い、藤野教授が環境教育インストラクター公開講座の修了書を授与しました。

年度が替わり、第2回目も4日間開催しました。講師陣は、前年度と同じ神奈川県塚本俊治氏から「神奈川県における環境行政と環境教育について」の講演、NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会の嶋田和夫氏から「環境教育の場と安全対策」の講演をいただきました。

更にはNPO法人かながわ環境カウンセラー協議会の曾我一人氏から「ケナフを通じた近隣小学校との環境コミュニケーション」の講義を、かながわ環境カウンセラー協議会の加藤忠男氏から「地球環境問題（地球温暖化）への取り組みを考える」の講義をいただきました。

講師はその年により微調整をしながらも、環境教育インストラクター認定講座には欠かせない「環境教育の場と安全対策」では、環境カウンセラーの野間紀之先生が様々な資料を紹介しながら解説をしてくださいました。環境教育インストラクター認定講座には毎年学生が申請を行い、取得する流れが今日まで続いています。

環境教育インストラクター認定講座を履修した学生は、その後NPO法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）に申請し、認定された学生は登録証を交付されます。そして、認定されたことがきっかけで、各種の環境教育関係の学会で発表する学生も現れました。

また、県と環境カウンセラー協議会など幾つかの環境NPOで結成している市民環境活動報告会では、学生が発表することで、環境カウンセラーの方々に関心を持っていただきました。

その他、環境関連の学会の報告会では、カザフスタン共和国の留学生であるサウレさんに発表の機会をいただきました。彼女の環境活動がきっかけになり、カザフスタン共和国の国営テレビが日本の環境行政を紹介し、その放送を見た、中東や中央アジアの諸国が日本の環境行政の素晴らしさに注目するようになりました。各国の環境行政を担う部署が日本の各企業にリサイクル工場の視察を行うまでに発展しました。

東海大学では環境カウンセラーの合格者を輩出することができました。その後、その学生が

私の講義で環境カウンセラーになるまでの苦労話をするなど、刺激を与えてくれました。

私は講義でエコ検定の内容にも触れることから、毎年エコ検定の合格者が出ています。また、地元のFM放送局に依頼し、エコ検定試験に合格した学生を出演させて、環境カウンセラー講座の宣伝などもしました。

東海大学における環境カウンセラーの認知度を高める活動が認められ、2017年には炭谷賞を受賞しました。これは環境カウンセラー登録制度の創設20周年を記念するとともに、ECU初代会長をして長年にわたって環境・福祉分野で社会貢献に尽力し、平成28年春の叙勲で瑞宝重光賞を受賞した炭谷茂氏の功績を記念して制定されたものです。本学が対外機関としては最初の受賞となりました。



2017年6月に環境カウンセラー全国連合会の総会があり、ECU理事長賞を受賞しました。環境カウンセラーとしての活動に功績を残したとのことですが、この賞は環境教育を行うにあたり行政職員や大学関係者、環境カウンセラー協議会の方々の協働作業に対し、いただいたものと思っております。

6. 環境カウンセラーネットワーク拡大のため

私は公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（通称NACS）の会員です。この組織は、消費生活アドバイザー資格者で構成されており、環境教育や消費者教育を主に取り組んでいます。消費者庁からエシカル教材の開発・普及啓発を委託され、その全国展開を会員で行っています。今後の新しい環境カウンセラーのあり方として、志を同じくする方々とネットワークを構築して、更なる環境教育の発展に尽くしていきたいと思っております。



環境カウンセラー活動事例紹介 04

高知県

吉迫 勝意

私の事業者部門での活動を紹介します

出身地：鳥根県

星座・干支：天秤座、辰年生まれ

血液型：A型

好きな言葉：高杉晋作 辞世の句

(下の句は野村望東尼作)

「面白きこともなき世をおもしろく

すみなすものは心なりけり」

2000年以降は、それまでの開発志向から環境保全重視に変容し、今後も微力ながら社会課題解決に取り組みたいと考えています。

【北海道環境カウンセラー協会設立】

私は、環境カウンセラーとして、2000年4月北海道環境カウンセラー協会設立に参加し、事務局担当、副会長、会長（ECU理事通算10年）として協会運営に当たりました。その間、エコアクション21審査員・構築コンサルを通じて事業者の環境保全意識の向上・普及啓発に取り組みました。主な活動は、環境カウンセラー登録間もない2000年6月から苫小牧市環境基本計画作成に市民参加したことです。現在もこのことが環境カウンセラーとしての原点だったと考えています。

【2017年9月22、23日全国EC交流会開催 基調講演者ピアンカ・フルスト氏と打合せ】



【苫小牧市環境基本計画作成、推進会議代表】

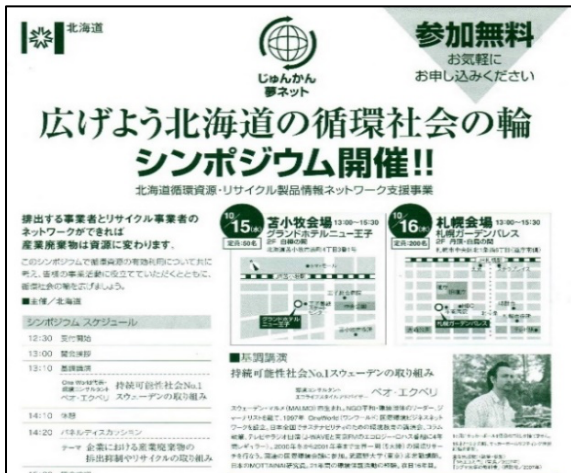
苫小牧市環境基本条例に基づく公募による市民組織「環境を考える市民の会」と市の協働により基本計画の作成作業を行いました。活動期間は、2000年6月2日の第1回会議から2002年12月26日の第37回策定本会議でした。会議は、課題毎の委員会、部会、地域懇談会を併せると延べ110回に及びました。完成後は準備期間において、環境基本計画推進会議を新たに設立され、子供たちとのエコクッキング教室開催、市民自然探索会の開催、食品トレイリサイクル工場見学会など2009年3月まで代表として運営に当たりました。

- ・当時は、札幌市、伊達市とともに市民主体による環境基本計画策定として注目されました。
- ・北海道大学の地域システム講座の学生さん4～5人が指導教授とともに会議に5回参加して刺激を与えてくれました。
- ・30人の公募に対して58人の応募者があり選考から漏れた方との交流で、傍聴参加、書面参加もありました。
- ・30人の委員は、高校生、主婦、事業者、僧侶、自然活動家など様々でした。
- ・会議は原則夜間2時間でしたが、交流を深め参加しやすくするため、日曜日の開催、チャリティー飲み会、環境関連映画会、まちあるき探索会など工夫して参加意欲の継続に努めました。環境問題は現在、地球温暖化、気候変動へと変化してきていますが、環境基本計画作成に取り組んだことは多くの市民はもとより新聞社はじめ外部の方々の意見を聞く機会があり、その後の環境カウンセラー活動の基礎作りだったと考えています。

現在、第3次環境基本計画に改訂、推進会議も継続されています。

【北海道中小企業リサイクルアドバイザー】

2006年10月北海道に「循環資源利用促進税」が導入されました。その税収の使途として、産業廃棄物の発生抑制やリサイクルの促進などの施策に使用されるため、導入前からアドバイザーの協力要請が北海道からあり、協会として協力しました。（環境カウンセラー4名）
（広げよう北海道の循環社会の輪）



苫小牧会場、札幌会場でのファシリテーターとして普及に一役果たしました。

その他私が関わった内容は、廃棄物発生抑制・リサイクルについてのセミナー講師、産業廃棄物処理業者の優良認定セミナー講師、廃棄物処分にに関する情報提供や仲介、木材加工会社の木くずの有効利用、省エネ対策について、木材乾燥ボイラーの燃料転換と国内クレジット案件を創出しました。その後毎年2~3件担当して参りましたが2020年3月高知県転居を前に退任しました。

【環境学習、省エネ診断、家庭の省エネ診断】

札幌市、恵庭市などの環境イベントに参加して、新エネルギー、再生可能エネルギーについて体験学習の実践及びセミナーを開催しました。（2017年環境広場さっぽろ）



環境カウンセラー協会には賛同者が少なく、2010年度「内閣府カーボン・カウンセラー養成講座」受講者10人でNPO法人を設立し活動を始めました。私は、その法人の会長を6年、監事を2年務めましたその間の活動です。環境広場さっぽろは毎年7月~8月はじめの3日間開催され3万人以上が参加する大イベントです。

恵庭市環境・エネルギー展も同様な内容で参加してきましたが2016年度は「地球環境基金」を受けて、気象予報士の講演会開催、環境エネルギー展PRチラシを作成（6千枚）して市内の全幼稚園、小・中学校生徒に配布しました。このイベントを端緒に、市庁舎はじめ保健センター、特別支援学級、道の駅小・中学校4校の省エネ対策の相談を受け、省エネ診断を行いました。小・中学校4校については電力計測と詳細な診断を行い、固定分電力使用量の最低化等の運用改善策を提案、機械室管理者への操作上の提案を行い教育委員会から感謝されました。

（2016年恵庭市環境・エネルギー展）



【南国高知県へ転居】

2020年6月、札幌市から高知県に転居しました。高齢化とともに冬期間の雪道、寒さ厳しい中での生活を夫婦ともまだ健康なうちに温暖なところに移住したく考えていました。

（1974年5月千葉県船橋市から北海道に転居していました。）

高知県に特に地縁はありませんが、都市計画関係の仕事で、中国・四国・九州地方には何度も出張の経験があります。四国八十八カ所巡りの修行道場の「遍路道」接遇が根付いた土地柄は長い間印象に残っていました。

【SDGs 推進アドバイザーとしての活動】

高知県では、「第4期高知県産業振興計画 ver.2」の重点ポイントの一つとして、「持続可能な地域社会作りに向け、脱炭素化・SDGsを目指した取組を促進」を掲げ、県内事業者によるSDGsの達成に向けた取組を推進しています。

「企業価値の向上」や「多様な人材確保」、「新たなビジネスチャンスの獲得」など、SDGsに関する取り組みを進める上での提案等を行う専門家を派遣し、SDGsの達成に向けた取組を後押ししています。

2021年12月、事業者から指名を受けアドバイザー活動をしています。地方銀行、損保会社も取引先に対してアドバイスをして取組活動を活発に行っています。

2022年11月現在登録事業者は269社あります。1事業所へ1回3時間乃至4時間で3回アドバイザーとして訪問します。事業者は高知県に派遣要請をし、県からアドバイザーに

「派遣概要書」とともに「派遣決定通知」があります。所定の回数終了し「完了報告書」を提出して、派遣終了となります。現在6事業所目を支援中です。支援先は業界団体、一部上場企業の高知事業所の社員教育、建設業、大手製造業のOEM生産工場といろいろです。

今、地域社会は疲弊しています、取り組む課題はたくさんあります、地域が元気にならないと企業も成り立ちません。地域の課題を自分ごととして、解決する気持ちで取り組んで下さいと、身近な例でアドバイスをしています。一人でも多くの方に伝えることを期待しています。

高知県の制度が北海道の「ゼロカーボンチャレンジャー」登録制度へ繋がったことが大変うれしいことです。

☆北海道グリーンBiz認定制度「優良な取組」部門における「ゼロカーボン・チャレンジャー」登録へ繋がった、「高知県SDGs登録制度・SDGs推進アドバイザー制度」です。

北海道環境カウンセラー協会の2022年4月例会で高知県での活動報告したところ、江本会長・武田副会長が大変関心を持ち、北海道に早速陳情して、北海道ゼロカーボン・チャレンジャー制度発足に際し、北海道環境カウンセラー協会が「温室効果ガスの算定」担当事務局として関与することになりました。積極的な対応の結果ですが大変うれしい出来事です。

【高知職業能力開発短期大学校 電子技術情報科2年生 環境・エネルギー概論 講師】

2022年8月初め、高知県環境活動支援センターを通じて講師要請がありました。

全く予期しないことで、一時は、妻も反対しました。たとえ半年間でも毎週決まって一日は大変です。しかし、Z世代の若者と交流できるという誘惑には負け、熟慮の結果受けることにしました。10月から来年3月までの月曜日、全18回です、1週間がたつのが早く、妻ももう明日短大だねと、毎週決まった日に決まった時間に出かける、リズム感が現在あります。得意とする分野ですが、シラバス作成からはじめて、授業の組み立ては結構大変でした。現在は、WSを2回取り入れ楽しんでいきます。



(WS中の教室)

80歳を超えている意識は棚上げしています！

やがて100歳まで生きるのが普通の社会がやって来ます！いつまでも学び続けるということは健康でいるコツです。新しいことにチャレンジしてみることも心の潤いになります。何かにつけて「ありがとうね」という感謝の言葉も自然に出るようになります。

環境カウンセラーとして登録以来25年になります。この間、北海道環境カウンセラー協会での活動、ECU全国連合会との関わり、環境認証の審査活動、アドバイザー活動など多くの活動の場を頂きました。環境カウンセラーのプラットフォームのお陰と感謝し、関心ある方々には是非「環境カウンセラー登録」をお勧めしたいと思います。

環境カウンセラー活動事例紹介 05



東京都

田中 純江

私の市民部門での活動を紹介します

プロフィール

私は、埼玉県で生まれ、東京都西部の青梅市で育ちました。青梅のさらに西には、関東山地の山々が連なっているので、私の目にする景色には必ず山がありました。そして、東の東京湾に向けて流れていたのが多摩川、市を東西に貫く水量豊かな川でした。

住んでいた地域の標高は150メートルほど、近くに田んぼがあり、春はカエルの鳴き声がにぎやか、家の中にホタルが入ってきたこともありました。自然が豊か、そこでの小・中学校生活は、のんびりしたものでした。

大学は教育学部で学び、野外活動のリーダー養成講座を受けて、少年自然の家で子どもたちのリーダーを経験したのは、楽しい思い出です。卒業後、小学校教師になりました。

結婚して、仕事と家事・育児でてんてこ舞いの頃、「オオタカの森トラスト」代表の足立圭子さん（令和4年秋 緑綬褒章受章）に出会いました。当時足立さんは、オオタカの住む雑木林を開発から守ろうと奮闘されていました。自然や生き物を守ろうと献身的に活動する姿に、深く感銘を受けました。

その後、転居した武蔵野市で、住宅街の中に残された雑木林「武蔵野市立境山野（さかいさんや）緑地」を発見。都市化の進む市内に残る貴重な自然を守るため、「武蔵野の森を育てる会」の会員になりました（2005年）。緑地を保全するための森の手入れや、情報発信等に取り組み、2014年から事務局長を務めています。次に紹介するどっぼ子どもクラブは、この会から生まれました。



【どっぽ子どもクラブとは】

自然を体験し、自然を学び、自然を保護する活動をしています。(2016年 活動開始)

1) 目指していること

- ① 都市化した生活環境の中で育つ子どもたちに、自然との触れ合いの機会を提供し、子どもたちが仲間と共に楽しみながら、自然を体験し、自然について学び、自然保護の活動ができるようにしたい。
- ② 社会に対して開かれた会として、活動を通して学んだことを、子どもたちが地域に向けて発信できるようにしたい。



写真① 夏の自然観察会 (講師：NPObirth)

2) 活動 一概要一

1年間に15~20日、主に休日の午前中に活動しています。*緑地とは武蔵野市立境山野緑地

内 容	活動場所	写 真
① 動植物との触れ合いや、自然観察	緑地	①④⑤⑩
② 自然保護活動	緑地	②⑥⑧⑨
③ 作品制作	会議室	⑦
④ 地域のイベント(祭り等)に参加	各会場	③
⑤ 話し合いのためのZoom会議、その他	—	—



写真② 自宅に預かって育てたクヌギの苗を雑木林の再生地に移植



写真③ イベント出展作品 (模造紙4枚分)
左面は活動紹介と参加者募集。右面は、動植物の観察記録。心に残った動植物について、自分の思いと図鑑などで調べたことをまとめて、絵と文章で表現。

3) 活動 ー特徴ー

- ・活動場所は居住地域内
住宅街の中にある約1haの緑地が主な活動場所です。ほとんどの子の徒歩圏です。
- ・保護者の参加を歓迎
活動に保護者が参加されるのを歓迎しており、親子の参加が多く見られます。母親より父親の方が多いです。年下の幼児と一緒に来ることもよくあります。その結果、子どもたちは、多様な人と交流しています。保護者は、活動が円滑に進むように子どもへの声掛けなどをしてくださるのでありがたいです。また、こちらから簡単なお手伝いをお願いしたりしています。
- ・活動内容は柔軟に
その日の天候や、子どもたちの発見から生まれる活動も大切にしています。子どもたちのしたいことを実現できたらと思います。
- ・地域に向けての発信
子どもたちが自然の中で体験したことや学んだこと、また、自然を守るためのどのような活動をしたのかなどについて、地域のイベントに参加して情報発信しています。展示を見た人から、「こんなに生き物があるの?!」などと、驚かれたりします。

その他

- ・幼児、小学生、中学生が、協力して活動
- ・こどもエコクラブ登録団体
- ・令和4年度武蔵野市 善行表彰を受ける

(注) 4) 5) は、安保美波「自然体験における親子の学び」(2021年度 日本女子大学人間社会学部教育学科卒業論文)より。

4) 子どもにとって良かったこと (親から見て)

- ・虫に対する抵抗感が消え、興味を持った。
 - ・好奇心、探究心が高まった。
 - ・捕まえた生き物を飼っては死んでということを繰り返して、命を重く受け止めるようになった。
 - ・毎回の活動で知識が増える。木の名前、虫の名前や生態、植物の毒のあり無しなど。
 - ・専門家から話が聞けて刺激になっている。自分たちの仲間の発見もすごいと思っている。
 - ・自然に興味をもち、季節の変化に気づく。
 - ・初めて会う人と話す機会が持てた。
 - ・自分から話しかけられるようになった。
 - ・発表する経験を通して、どんどん力が付いている。
- 子どもは自然について学んだ以外にも、コミュニケーションの力が向上していました。

5) 自分にとって良かったこと (親自身)

- ・子どもの普段の様子を知ることができた。
 - ・子どもと共通の話題ができた。
 - ・子どもと一緒に遊べた。
 - ・自然や環境について、学ぶ場になっている。
 - ・地域のために何かできることがあればいいと思う気持ちが生まれた。
 - ・地域の方々に見守られて、子どもも私も楽しく生活できている。自然を守る人がいるからこそこの生活なんだと、視野が広がったような気がする。
- 子育てへの好影響と共に、親自身の成長、特に地域に役立ちたいという気持ちが芽生えたことが分かりました。



写真④ カブトムシの幼虫発見



写真⑤ カナヘビ探し?



写真⑥ 園路を掃く

【活動の連携先】

1) イベント参加や、会議室の利用

武蔵野プレイス、武蔵野市民会館、武蔵野エコリゾート、武蔵野市西部コミュニティセンター等のイベントに参加して、地域の雑木林の自然について活動から学んだことを紹介しています。また、これらの会議室を利用しています。

2) 講師派遣や、助成金の交付

特定非営利活動法人NPObirthから自然観察会の講師を派遣してもらい、生き物や自然について学びます。

武蔵野の森を育てる会からも、日常的に緑地の動植物についての情報を得ており、保全作業やイベント参加で、協力しています。

こどもエコクラブ登録団体として、同団体から情報提供や様々な支援を受けています。

助成金は、武蔵野市、子どもゆめ基金、セブン-イレブン記念財団から受けました。

【その他の カウンセラー活動】

地域で様々な活動に関わっています。代表的なものは以下のとおりです。

1) 「武蔵野の森を育てる会」事務局長

活動の企画運営にかかわっています。この会は、どっぽ子どもクラブが活動場所としている境山野緑地の保全を担っており、近年発生したナラ枯れを乗り越えて雑木林を再生しようとしているところです。

2) 「玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会」役員

日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」に参加、都と連携して保全活動をしています。

3) 「ジモッピーネット」代表

地元のピープルがつながりの中で学び合い、より良い社会を目指して地域課題に取り組む会。今も残る里山由来の資源を生かす、環境配慮型地域作りに目を向けています。



写真⑦ 作品制作



写真⑧ コネズミガヤ取り



写真⑨ ササ刈り



(だるまさんがころんだ)
(落ち葉じゃんけん)



写真⑩ 冬の雑木林で遊ぶ



環境カウンセラー活動事例紹介 06

大阪府

宇田 吉明

私の事業者部門での活動を紹介します

1995年関西企業の環境部門責任者が集まり、関西から環境のうねりを起こそうと関西環境ウェーブ（K-Wave）を設立、その立上げに関わった。この時のメンバーに誘われ1998年に環境カウンセラーとして登録。2000年大手食品会社を早期退職し、宇田環境経営研究所を開設し、自治体や企業の環境カウンセラー活動を開始、現在に至る。

■ なにわエコ会議での事業者の環境活動支援

◇なにわエコ会議発足への参画

2002年大阪市に、所属している大阪環境カウンセラー協会として提案した環境家計簿を使った家庭の省エネへの取り組みである「なにわエコライフ事業」が採択されました。同時に大阪市より地球温暖化防止協議会「なにわエコ西淀川地球温暖化防止協議会」の事務局を委託されました。これがきっかけになって、継続的な環境活動を推進するために市民、事業者、自治体の協働組織の設立の話が持ち上がり、立上げに参画し、2005年に「なにわエコ会議」が発足しました。当初は、これまでの経緯で、市民活動を推進する「エコライフ部会」の部会長を委託され、主に市民及び市民団体との協働で環境啓発活動に取り組んでいました。2007年から「環境に配慮した企業部会」の部会長を委任され、事業者の環境支援に取り組み始めました。これらの取組が評価され、2017年に大阪市より環境表彰（市長表彰）を受けています。

◇環境に配慮した企業部会での取り組み

事業者の温暖化防止活動を促進するために

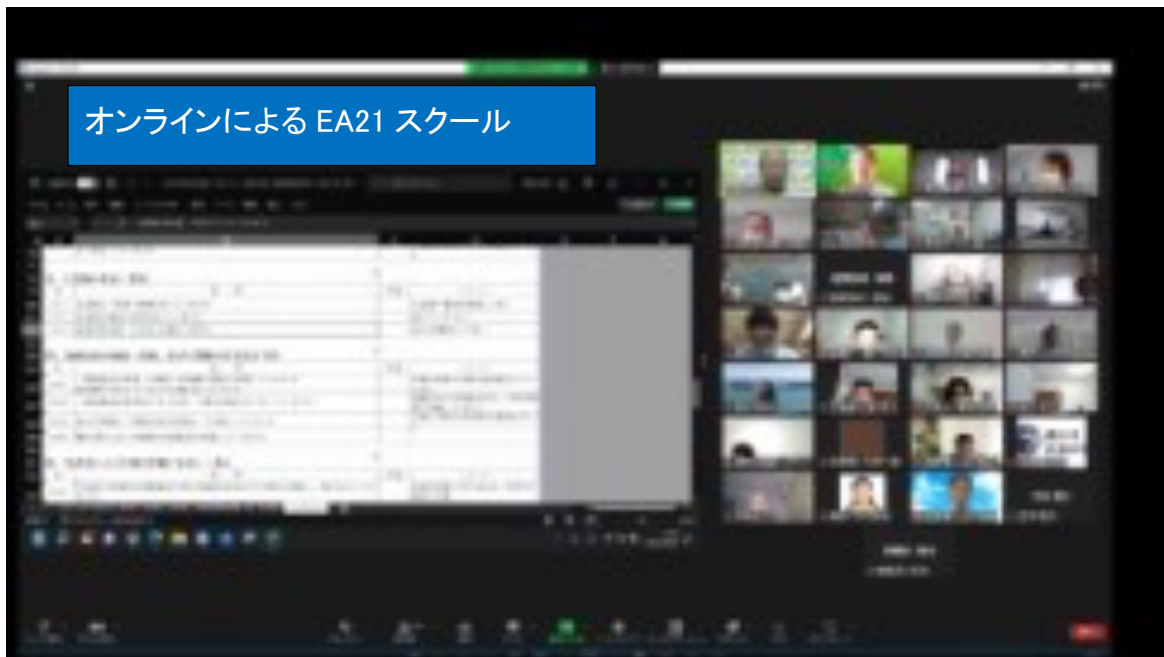
「CO2削減コンペ」を企画提案し、2008年度に応募を開始しました。7月～9月の3か月間の省エネ活動によりCO2削減を競う内容です。23社の応募があり、3か月間の取り組みで、23社合計で544t-CO2削減（15%削減）と一定の成果を上げることができました。当初はなにわエコ会議会長及び部会長名での表彰でしたが、その後、大賞と優秀賞は会長と大阪市長の連名での表彰にさせていただきました。



CO2 コンペ表彰式

2011年の東日本大震災を機にCO2削減に加えて、最大需要電力を下げる節電も表彰の対象にしました。2019年には大阪で開催されたG20で採択された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を受けて、「CO2・プラごみ削減コンペ」として衣替えし、現在に至っています。2021年には、この取り組みが評価され、なにわエコ会議企業部会として「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞しました。私自身も環境カウンセラー表彰の「気候変動貢献賞」を戴きました。

◇エコアクション 21 スクール



もう一つの取組として、エコアクション 21 導入を希望している事業者向けに、エコアクション 21 スクール（略称：EA21 スクール）を開催しています。

この EA21 スクールは 2004 年から大阪府中小企業家同友会（略称：大阪同友会）からの講師依頼を受け開催していたものを応用したものです。大阪同友会の EA スクールは中断することなく続いており、現在は、環境カウンセラー 3 名で講師と運営を行っています。

なにわエコ会議の EA21 スクールでは大阪環境カウンセラー協会に所属する環境カウンセラーが中心となって事業者を個別に支援しています。2020 年以降は新型コロナの感染予防のため、オンライン形式に変更しましたが、集合研修の後に個別ルームに分かれて、個別支援を行っており、移動する時間も無くなったことから、事業者には喜ばれています。2020 年の政府によるカーボンニュートラル宣言以降、EA21 スクールに参加する事業者が多くなり、現在では 6 月コースと 10 月コースの年 2 回開催しています。

■ デイリー食品メーカーの環境対策支援

大手企業では自社の環境への取り組みを深める中で、サプライチェーンを含めた環境対策を推進する動きが加速しています。その動きの中で、環境カウンセラーの役割は大きいと思います。私もデイリー食品メーカーの環境対策の支援を行っています。CO2削減、廃プラ削減、食品廃棄物削減等の課題解決に向けて、集合研修や個別支援等に取り組んでいます。環境対策会議での助言や研修会の開催、個別支援等については、2019年までは現地に出かけての活動でしたが、新型コロナウイルス感染拡大以降はオンラインでの支援になりました。オンラインになったことで、日本全国、自宅に居ながら支援できるようになり、活動の範囲が広がりました。また、遠方の企業の支援には地元の環境カウンセラーに声を掛けて支援をお願いしています。

■ その他の活動

環境カウンセラーは様々な場面で活躍の場があります。

◇自治体の環境審議会委員や第三者評価委員
これまでに自治体の環境への取組の第三者評価やアドバイスとして、大阪府、大阪市、京都市からの依頼で、省エネやコピー用紙の削減等の助言を行っています。また、大阪市の環境審議会委員として地球温暖化条例（当時）の諮問委員の機会がありました。

◇自治体の事業者への環境活動促進に参画
大阪市内の事業者が大阪市環境経営推進協議会を組織化する際に参画し、現在は、その運営を大阪環境カウンセラー協会が受託しています。環境カウンセラーが会員向けの研修会や視察研修会の企画・運営を行っています。また、会員向けの環境情報誌の発行を行うなど環境カウンセラーが役割を担っています。

◇企業団体へのエコアクション21導入支援
大阪環境カウンセラー協会はエコアクション21地域事務局を運営しています。私はエコアクション21普及戦略部門長として、環境カウンセラーの皆さんと一緒に事業者団体や金融機関のエコアクション21導入支援（EA21スクールの企画・実施）を行っています。

◇マスコミ等での紹介
TVや新聞等マスメディアで環境カウンセラーの活動が紹介される場面があります。



環境カウンセラー活動事例紹介 07

群馬県

富所 哲平

私の市民部門での活動を紹介します



群馬県を中心に活動する環境カウンセラーの富所哲平です。今日は、僕が、環境SDGsのお話を、2022年の一年間で年間100講演させて頂いた経験を共有させていただきます。僕、富所哲平は、お笑い芸人です。2007年に吉本芸人としてデビュー。4年間、東京で活動したのち、吉本の企画「地域を笑いで盛り上げるプロジェクトあなたの街に住みますプロジェクト」の群馬県担当になり、2011年から群馬県に住んで活動するお笑いコンビ「群馬住みます芸人アンカンミンカン」のツッコミ担当として芸能活動をしてきました。お祭りやイベントでネタをやったり、司会をやったり、群馬県のラジオやテレビで活躍したり、少しずつ仕事の幅を広げていきました。

そんな中で迎えた2017年、群馬県桐生市のコミュニティFMで国が進めるプロジェクトのCOOL CHOICEの一環で、脱炭素社会づくりを目指したラジオ番組のMCを担当することになりました。

ここでの気づきが、今回の発表の特徴の一つでもあり、環境への取り組みを一過性のイベントで終わらせずにライフワークまで持ってきたこと、それこそ今日まで続いてきた活動の大切にしているコアの部分だと思っています。



2011年からやってきた「住みます芸人」の活動は、いわゆる普通の芸人活動とは違って、ステージ上の「はい、ど〜も〜！」を売り物にしていません。地域を盛り上げるためのお笑いは、もっと根源的で本質的な、コミュニケーションスキルとしてのお笑いです。住みます芸人は、それを売り物にしています。つまり、人と人や、情報と人などをつなぐ、接着剤の役割を担ってきました。コミュニケーションスキルとしてのお笑いを武器に地域をつないできた、それが僕たち住みます芸人です。そんな視点を以ってスタートします。

正直な話、環境の話は、説明・解説が難しくなりがち。専門家ほど、話が学術的で複雑で、テクニカルで基礎知識なしではちんぷんかんぷんになってしまう。大多数の普通市民は置いていかれて、結果、やらされが多くなり、効果も上がらない。

そんな環境の話と、市民を、笑いの力でつなげよう、接着してみよう。住みます芸人ならできるはず。やってみよう。

環境カウンセラーとして活躍される方や各界の専門家の方のお話を伺い、面白おかしく盛り上げながら、本質の部分はしっかり伝える。ふざけつつも、締めるところはしっかり締める。

群馬大学の特任教授の宝田先生が番組内で教えてくれた【正しいことも楽しくないと伝わらない】は、大切にしているマインドで、皆さんに共有したい想いの一つです。

そんな学びの延長上に、環境カウンセラーの先輩方からの「富所くん、環境カウンセラー目指しちゃいなよ」もありました。

こういった経緯があるからこそ、僕だからこそできる伝え方や表現の工夫を、常に心がけています。

たとえば、僕たち環境カウンセラーにとって当たり前の環境への関心も、普通の人からしたら興味なくて他人事でめんどくさい。本当にやばくなったら自分じゃない誰かがやってくれるもの。だからこれは、【環境を学ぶことは、自分の思い通りにはいかない絶対的な力・自然との「折り合いの付け方を学ぶこと」】っていう風に意味を変えます。そうすると、「折り合いの付け方」が上手くなれば、お友達とも仲良くなれるかもしれない、職場の人間関係で悩まなくて済むかもしれない、奥さんに優しくしてもらえるかもしれない。笑





たとえば、僕は講演の最初に、元気に「どうも〜」って出ていきます。拍手で迎えてもらうわけですが、「あっ皆さん、拍手っていいんですよ。手のひらって毛細血管が通ってるから、手って叩けば叩くほど若返るんですよ。」って。僕はこれを【つながりを知ること】ってお伝えしているんですが、今まで何となくボーっと叩いていた拍手のモチベーションが変わるかもしれない。

つまり、二酸化炭素減らそうって言われたって、僕らは二酸化炭素が増えたらなんで地球が温暖化するのを知らないわけで。つながりを知らない。だからモチベーションが上がらない。やらされが抜けない。コンビニが24時間あいているのも、食べられるものが捨てられているのも、着れる服が捨てられているのも、全部知らない。つながりを知らない。つながりを知らないことを、知らない。

動画も使います。効果的に知るために。

そもそもこんな風に話させてもらえる場をどのようにして作ったか。環境の話をみんながこぞって「聞きたい、聞きたい」ってなっていたら、地球はこんなことになっていないわけで。

そこでSDGsが機能しました。行政、企業、学校、各種団体が「SDGsって何？」ってなっていたので、「環境カウンセラーで、SDGs芸人の富所です！」ってやりました。どんなに良い話をしてくれようが、大切な話できなかったとしても、入れないのが行政だったりします。学校だったりします。「SDGsの話をしてくれるなら」で呼びやすくなったのは多くのところで実際に言われたことです。呼んでさえもらえれば、「仮にSDGsがどんだけ優秀なシステムだとして、それを扱う【人間】が本質的に変わらないことには、どっちにしる行き止まりになりますよ」って。一人ひとりが、どんな未来を残したいのか、考えましょう、知りましょう、選びましょう。

僕はSDGsは「自分さえ良ければ良い、じゃダメ」だと考えています。でもこんなのはキレイごと。日々に余裕がなかったら、つい気が抜けて、危機感に慣れちゃって、自分さえ良ければいっかになってしまうのが人間です。何かかならないものか。

人間ていうのは、「自分さえ良ければ良い」でやってると、自尊心が削られるんだそうです。自己肯定感が下がってくるんだそうです。そうするとネガティブマインドになって、愚痴・悪口が増えるんだそうです。他人の目が気になるようになってきます。気になりすぎて、自分のしたいこと一つできなくなる。「自分さえ良ければ良い」でスタートすると、「自分のしたいこと一つできない」ってゴールを迎える負のループ。

つまり、人はつながりの中で生きている。誰だって一人じゃ生きていけない以上、つながりの中で、つながりを感じて、誰かの「ありがとう」のために生きたほうが幸せになれる。地球のことを考えるのは、誰のためでもない、自分のため。

正直、僕は、お笑い芸人でありながら環境カウンセラーってことで、今回の発表の再現性は低く、情報を完全に共有するってところは難しいわけですが、畑が違う、見てきた世界が違うからこそ、皆さんにシェアできる部分があると思って応募させて頂きました。この背中を押して下さったのが、前回のオンラインの研修で見かけて、個人的にアプローチしてみた中村さんで、お互いが今回の事例発表で並べたので、本当に僕は横のつながり、できることできないこと、得意不得意得手不得手と向き合うことが大事だなって思います。



環境カウンセラー活動事例紹介 08

愛媛県

中村 優理子

私の市民部門での活動を紹介します



大学時代に松山市が主催する環境講座を受講し最年少で「松山市エコリーダー（環境学習講師）」登録。学校等で自然観察やリサイクル工作、環境クイズなど楽しく学べる体験型環境学習を企画運営する一方、行政経験(市環境部で家庭系一般廃棄物や環境教育啓発を担当)を活かし、食品ロス削減や海洋プラスチック問題、SDGs等について様々な方面で講師を務める。愛媛県環境マイスター、愛媛県海岸漂着物対策活動推進員、松山市エコリーダー。まつやまこどもエコクラブ主宰。3児の母。声優、書道家、合唱団員としても活動している。

1) 活動内容とフィールド

私はごみ問題についての講演やリサイクル講座（紙すき等）を、主に3つのフィールドで実施しています。

①松山市役所職員として

現在は環境部に所属し環境教育や啓発担当リーダーを務めています。具体的には市民向け学習会やイベントの開催、松山市エコリーダー（環境学習講師）の派遣、テレビやラジオ等での情報発信を行っています。

また、松山市には「まつやま Re・再来館（りっくる）さいくるかん 愛称：りっくる」という環境啓発施設があり、廃材を利用した木工やリサイクル工作等、ほぼ毎日環境イベントを開催しています。運営メンバーと私は環境分野で活動する者同士20年以上の交流があり、コミュニケーションを密にとりながら運営しています。



(写真：まつやま Re・再来館（りっくる）)

②地域の活動として

学校や町内会等による住民ネットワーク組織「まちづくり協議会」のマスコットの中の人としても活動しています。広報紙（8,000世帯全戸配布）ボランティアを10年以上して4コマ漫画やインスタを通じて環境問題についてわかりやすく伝えています。



(画像：4コマ漫画の一部)

③ワーキングマザーとして

家族でこどもエコクラブに登録し、自然体験や清掃活動を行っています。



(写真：
希少な海鳥コアジサシの模型づくり)

また、公民館と連携し、地域の子どもたちを対象とした夏休み環境学習会を毎年開催しています。テーマがごみ（海ごみ・食品ロス等）の場合は私が講師を務めますが、様々な環境問題について広く学んでほしいと考えから、コーディ

ネットを行うこともあります。昨年は、企業や元理科教諭等をお招きしてLEDの実験教室（省エネ）やかんなくず工作（自然物工作）、ecoカルタ大会などを開催しました。

さらに、エシカル消費等、生活の中にエコを取り入れているワーキングマザーとして、テレビや新聞の取材をご依頼いただくこともあります。誰にでも真似ができる身近なモデルとして取り上げていただいていると感じています。

2) 依頼先

県市の環境講師バンクに登録しており、バンク経由で会社や他の自治体、学校、児童クラブ等からご依頼いただくことがほとんどです。ほかにも環境カウンセラーのホームページ（活動報告）をご覧になって直接問い合わせをいただくこともあります。

さらに口コミやリピーター（ご指名）の場合もあります。

なお、私は公務員ですので基本的に謝礼の受け取りができず、無償での活動がほとんどです（材料費や交通費だけいただくことがあります）。



(写真 児童クラブで自己紹介)



(写真：児童クラブで海ごみの話)

3) 打ち合わせは丁寧に

ご依頼をいただいた後は、相手方の情報収集をします。公式ホームページはもちろん、企業の場合は「統合報告書（IR）」、自治体の場合は環境に関する計画や報告書等を確認したうえで、ヒアリングや打ち合わせを丁寧に行います。参考にエゴサーチをすることもありますが（社風などを知るため）。

また、私の専門は「ごみ」ですが、近年は、SDGsをテーマとしてご依頼いただくことも増えてきました。昨年は某企業から社員研修の依頼をいただいたのですが「見せかけのSDGsではなく社員一人ひとりにしっかりとSDGsを浸透させたい」とのご要望がありました。「私の力でどこまでできるのだろうか…」と悩んだのですが、依頼主との打ち合わせを重ね、参加者同士の対話から答えを導き出すようなオリジナルのワークショップを提供することにしました。結果、参加した社員の9割以上から「満足」との回答をいただくことができました。

4) 気を付けている点、強み

環境カウンセラーとして活動するにあたり、気を付けている点はいくつかあります。

①コミュニケーションを十分に

私と参加者が初対面の場合、お互いに少し緊張してスタートすることがあります。緊張がコミュニケーションの支障にならないように、アイスブレイクや声かけは多めに行い、質疑応答がスムーズにできるようにしています。

また、参加者の集中力が途切れないよう、話は1フレーズを短めにし、都度、内容に応じたクイズをしたり小道具を使ったりしています。子どもが相手の場合は、●ケモンキャラクターの服を着て行くこともあります。

②情報は最新のものを様々な視点から

国の発表や白書、IPCC報告書のほか、廃棄物専門誌や新聞等で情報をアップデートしています。また県内のビジネスコミュニティに所属して、地域の最新情報を得るようにしています。

5) 最後に

松山市は「環境モデル都市」「SDGs未来都市・自治体モデル事業」に選定されるなど、環境分野では熱心に取り組んできました。

また、ごみ減量では、50万人以上の都市で、一人一日当たりのごみ排出量最少を過去10回1位に選ばれ、さらには、環境首都である姉妹都市ドイツ・フライブルク市やイクレイ加入自治体さいたま市とは、環境分野での連携や交流を行っています。

私は、公私共に環境教育に携わる者として、それぞれの立場で得た知見を活かし、より一層取り組むとともに、今後は担い手育成にも注力したいと思います（市エコリーダースについては、昨年、弟子入り制度を立ち上げました）。

また、多様な主体と連携することで、より大きなムーブメントにできるよう「コミュ強」を活かして仲間づくりをしていきたいと思えます。



環境カウンセラー活動事例紹介 09

兵庫県

伊藤 和男

私の市民部門での活動を紹介します



1. 関西地域での鎮守の森の衰退状況調査と森林土壌調査

1-1 活動をはじめた理由、目的

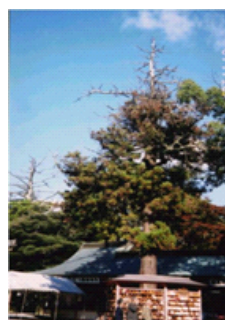
かつて訪れたある鎮守の森（社寺林）で、激しい樹木の衰退を目にして大変驚きました。その後訪れた別の鎮守の森でも、やはり樹木の衰退に気がつき、衰退が広い範囲に広がっているのではないかと考え、調査の必要性を強く抱き、調査を始めました。

調査は、樹木の衰退状況の調査と土壌調査です。特に土壌の化学性に注目しました。

その結果、調査した鎮守の森の土壌が、化学的に劣化していることが明らかになりました。また、衰退の激しい樹木ほど、その樹木周辺の土壌の化学的劣化が進行していました。そこで、土壌の劣化が樹木衰退の原因の1つと考え、関西地域の多くの鎮守の森について調査を続けています。

さらには、鎮守の森の衰退が広がっていること、鎮守の森を保護するためには、土壌の管理が重要であることを、多くの人に伝えていきたいと考えています。

下の写真は、調査した鎮守の森に見られた衰退木の例です。



写真：衰退木（左：スギ、右：サクラ）の例（左：京都府、右：奈良県）

1-2 調査活動の実際

【調査の許可】

調査には、鎮守の森の管理者、主に神社の宮司様の許可が必要です。調査目的を詳しく説明して、調査の許可を頂いています。特に歴史のある鎮守の森では、普段入れない場所もあり、今までの調査結果などを示して、理解をもらい、調査許可を得ています。また、場所によっては、宮司様だけでなく、総代様や教育委員会、さらには、市、県の担当部署などの許可を頂いています。

【活動の協力者】

調査活動を一人でするには、限界がありますので、関心のある学生に同行してもらい、調査を行いました。さらに、所属する社叢学会の協力を頂きました。また、各調査地では、地元市民による、鎮守の森保存会等が保全活動をしている場合があります。そのような場合は、保存会の方に、調査に同行して頂いています。

【今までの調査地】

自宅や職場のある兵庫県や大阪府だけでなく、広く関西地域全体にわたり、鎮守の森の調査を20年ほど続けています。

兵庫県では、宝塚市の3か所、西宮市の2か所、神戸市の2か所、三田市の1か所、宍粟市の1か所、朝来市の1か所等を調査。大阪府では、交野市、富田林市の1か所、岸和田市の1か所、寝屋川市の1か所、堺市の1か所等を調査しています。また、奈良県では、奈良市の2か所、天理市の1か所、三郷町の1か所、吉野町の1か所等を調査。京都府では、京都市の2か所、亀岡市の1か所、宮津市の1か所、八幡市の1か所等を調査しました。滋賀県では、大津市の2か所、多賀町の1か所等を調査、和歌山県では、かつらぎ町の1か所を調査しました。

関西地域以外では、津波被害のあった宮城県の鎮守の森も調査しました。さらに、岡山県および香川県でも鎮守の森の調査をしています。

下の写真は、京都市での調査の様子です。



写真：調査中の様子（京都市）

【調査方法】

事前に調査地点の地図を用意して、全体像を把握しておきます。調査項目は、樹種の特定、樹木の衰退指数の決定、胸高直径の測定を行います。衰退指数は、環境省の基準に従って決定します。

次に、樹木の幹周辺の表層土壌を採取します。採取した土壌について、化学性の測定（土壌pHおよび栄養塩量）を行います。測定方法は、日本土壤肥料学会の基準に従っています。

【調査結果とその解析】

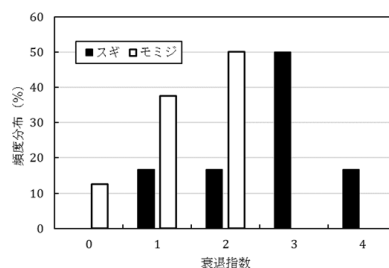
測定結果は、表、グラフにまとめます。下の図は、大阪府の鎮守の森での樹木の衰退状況を示しています。衰退指数0が健全木で、衰退指数4は、枯損している木を示します。衰退指数2（中程度の衰退）や3（激しい衰退）の樹木が相当の割合で観測されました。

また、樹木の衰退と土壌pH（土壌酸性度）の関係をグラフにまとめ、相関をみます。大阪府の鎮守の森での測定結果の1例を下の図に示しました。相関係数 $r=-0.9$ となり、明らかな相関が認められました。土壌pHが低いほど（土壌の酸性度が高いほど）、樹木の衰退が進んでいました。このような関係は、多くの鎮守の森で見られています。

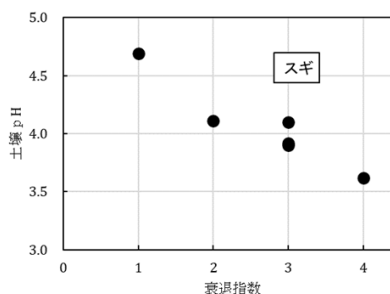
さらに、土壌中の栄養塩の量も測定しました。その結果、多くの調査地で、栄養塩量が非常に少ないことがわかりました。

したがって、土壌の劣化が、鎮守の森の衰退の原因の1つとなっていると考えられます。

以上は、大阪府交野市の調査地の例ですが、同様な、樹木の衰退、土壌の劣化は、関西地域の大部分の調査地で観測されました。



図：スギ、モミジの衰退状況
（大阪府交野市）



図：スギの衰退と土壌pHの相関性
（大阪府交野市）

【啓もう、出版、広報活動】

調査結果は、論文として、論文誌などに投稿、発表しています。例えば、地域自然史と保全誌、環境科学会誌、環境情報学会論文集、社叢学研究誌等です。

また、一般向け雑誌等にも、記事を書いています。さらに、市民大学講座や大阪のNPO団体においても、講演をしています。論文を掲載した論文誌の1例を下に示します。



2. 関西地域での衰退した鎮守の森の回復活動

2-1 目的

調査した多くの鎮守の森で土壌の化学的劣化が認められました。そこで、鎮守の森の衰退を回復させるために、劣化した土壌に土壌改良剤を散布して、土壌回復を試みました。

実験の結果、確かに土壌改良剤の効果が確認できました。そこで、いくつかの森で、土壌改良剤の散布を行っています。土壌改良剤は、研究発表会で関心を持って頂いた、改良剤製造会社より、無償でご提供頂きました。

2-2 活動の実際

【対象地点】

京都市の鎮守の森で、土壌改良を行いました。その結果、土壌化学性の改善が確認されています。また、樹木の衰退が見られる、大阪府堺市の鎮守の森でも土壌改良を行いました。さらには、同様に樹木の衰退が見られた、奈良県吉野町および兵庫県宝塚市においても、土壌改良活動を行っています。

【活動の方法】

対象となる樹木を選定して、その幹の周りに土壌改良剤を投入します。その様子を写真に示しました。雨や風で流されないよう、溝を掘って、その中に投入しています。

土壌改良剤は、無償提供頂いた、カルシウム系の土壌改良剤です。下の写真は、大阪府堺市および兵庫県宝塚市の鎮守の森における、土壌改良の様子です。



写真：土壌改良作業
(上：大阪府堺市、下：
兵庫県宝塚市)



環境カウンセラー活動事例紹介 10

岐阜県

多賀 吉令

私の市民部門での活動を紹介します

大学の理工学部機械工学系を卒業後、大手化繊会社に就職し、動力課でボイラー・タービン・空調関係の維持管理に携わった。当時中東戦争突発による第1次オイルシックが起きた頃で企業は設備拡大、増産体制の時期でしたが同時に公害問題が噴出してきてこれらの対策が要求されるようになった。又省エネルギーに関わる難題まで出てきた。このことにより私自身環境問題には早くから関心が深かった。家庭の事情により途中退職し、その後地元の役場に奉職し29年間勤め上げました。退職後は、地元の公民館館でのまちづくりに関する活動やショッピングセンターで設備関係の仕事に5年間勤め、その後NPO 愛知環境カウンセラー協会での団体環境活動や地元の岐阜県内では、地球温暖化防止活動推進員での環境活動をはじめ、最近では岐阜県委嘱の環境教育推進員で岐阜県内の小学校に出前講座で走り回っています。さらに企業においては岐阜県内の中小企業における環境経営を主体としたコンサルや日本ボイラー協会岐阜支部でのボイラー講師にも環境の活動の輪を広げています。私の環境への始まりは、企業におけるボイラーの運転管理と公害問題に関する仕事でありました。役所定年前には、東京商工会議所主催のエコ検定に挑戦し、退職後は、省エネルギーや環境カウンセラー等10種類の環境資格にも挑戦し、今は、民生関係の環境活動や地元企業の環境経営コンサルタント活動にも日夜励んでいます。

●土曜日授業を活用し地域と学校との協働による環境活動

平成26年度10月から試行的に小中学校(9校)の土曜日授業(月1回3月までの期間で計5回)が垂井町教育委員会からの依頼により町内全域で始まった。私の住んでいる地域では、栗原まちづくり協議会組織の安全環境部会が中心になり地域と学校と連携しながら計画を進めた。計画の指針は、地域と学校との協働による学びの場づくりによって、子どもたちが地域の自然環境にふれあい大人と学びあい、地域の未来について考えながら豊かな地域づくりに向けた、垂井町栗原の特色ある活動に取り組んだ。私は、協議会長を仰せつかっている立場であり、しかも環境カウンセラーでもあるので積極的に体制作りからカリキュラムそして講師の選定まで、小学校と協議してスタートさせた。平成27年度からは年に4から5回活動計画を立てて活動を行った。

活動事例 ①企業における廃棄物削減と賢い買い物の仕方を学習

大型ショッピングセンターにおける産業廃棄物処理について見学研修することを立案した。又、SDGsにある目標12の“作る責任 つかう責任”について現場に行き理解を深めるために学校と協議して計画した。

主に次に2点について企業の責任者からお話を聞いた。

- イ. 廃棄物削減の取り組みについて
 - ・プラスチック削減対策
 - ・食品ロス
 - ・食品リサイクル
- ロ. CO2 排出量の削減について
 - ・太陽光発電設備

・省エネ機器導入



活動事例 ②歴史教室と体験活動

垂井町栗原山の南端頂上近くに、岐阜県指定の天然記念物「連理の榊」別名縁結びの榊とも呼ばれ、樹齢400年の大木があります。実際に近くで見ると二本に分かれた太い幹や枝がいたるところから絡み合っているところから、このように呼ばれています。その横には「相和して結ぶ榊の萌ゆる春」の句碑もたっています。このように先代から伝えられてきている地域に残る「連理の榊」を地域ぐるみで守っていくためにまちづくり協議会が中心になって子どもたちに現地に出向いて学習の機会を与えています。

また、この地区では農業地帯で米作りが盛んでありました。子どもたちに昔の農作業の話をしたり、縄ないやお正月に飾る「しめ飾り」の作り方を子どもたちが体験する場を設けるために、まちづくり協議会で協議しプログラムの中に取り入れた。

活動事例 ③環境と省エネ

世界的に起きている地球温暖化や災害の状況をDVDで視聴することにより学び、私たちが家庭や学校で出来る身近な環境活動を子どもたちで話し合った。又、エネルギーの必要性や身近な省エネについてもグループで話し合った。又体験学習としてLEDや発熱電球の明るさの比較や、自転車で発電することも実施した。この活動は、私が関与している岐阜県地球温暖化防止活動推進センターより発電機を借用して活動を行った。





●各種環境団体での環境活動

活動事例 イベント活動に参加と出前講座

(地球温暖化防止活動推進員としての活動)

近年活動の内容と多かったことはイベント活動であり、内容としては岐阜県内における

次に多いのは、小学校での出前講座であり主に地球温暖化防止や再生可能エネルギーに関する内容について依頼があり活動を行った。地球温暖化防止活動推進センターが活動の事務的事項については学校との打ち合わせを行っているから、私自身は当日講師として参加することだけであり、環境カウンセラーが自主的に授業に専念することができた。



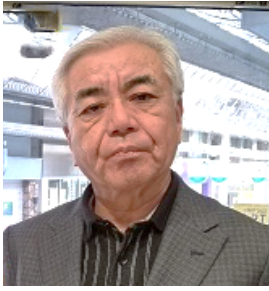
ショッピングセンター内での環境省の「クールビズ・ウォームビズ」のイベント活動でした。お買い物に見えるお客様を対象にこれらの主旨をパネルや資料で説明する啓発活動主な内容です。

●総括



土曜日授業を活用した地域と学校との協働による環境活動については、私がまちづくり協議会の会長であり、環境カウンセラーにも登録していましたこともありスムーズに計画から実践まで進めることができたものと思います。又私自身過去行政の立場にいたことも容易に活動を進められたものと思っています。今後もこのことを継続していくためには、後継者の育成が大前提であると思います。

地域の素晴らしい自然を後世に残していくためには未来のある子どもへの環境教育や地域の防災教育を進めていく必要があると思っています。少子化・高齢化が進む中私は協議会会長の立場が終えようとも、地元の環境カウンセラーとしてのバックアップは今後も続けていきたいと考えています。



環境カウンセラー活動事例紹介 11

栃木県

大沼 晴彦

私の市民部門での活動を紹介します

・戦後のベビーブーム第1号昭和22年仙台市で生まれ75歳になります。自動車会社勤務で退職後環境活動をスタートし10年になります。環境イベントのスタッフや最近は小学校への環境出前授業に専念しています。

・テーマは地球温暖化と再生可能エネルギーの啓蒙活動で。10名の仲間と活動を続けています。

・出前授業活動が認められ、東京商工会議所主催のeco検定アワードで昨年11月に個人部門の優秀賞を受賞致しました。

今回は活動を開始して4年になる主に宇都宮市立小学校高学年向けの環境出前授業と栃木県の地球温暖化防止活動推進員の座学研修講師委嘱の活動を中心に紹介致します。

●活動紹介

【1】環境出前授業活動：

私は定年退職後栃木県地球温暖化防止活動推進員に所属し、環境活動の一つである「エコアクションスクール事業」として小学校への環境出前授業を推進員仲間数名で実施しましたが、所属して2～3年で事業の活動資金がなくなり、この活動は残念ながら終了致しました。小学校への出前授業は初めての経験でしたが、小学生への環境保全の重要性を啓発する活動の重要性を発信する行動の充実感を味わっていた矢先の活動終了で継続したい気持ちが残っておりまして。

そこで当時宇都宮市のNPOの環境活動団体にも所属していたこともあり、こちらの団体でこの出前授業の活動ができないものかと、4年前に環境仲間へ話を持ちかけたところ合意を得、宇都宮市の環境活動として市役所の環境担当課とも連携を取り、出前授業をスタートすることになりました。

初年度の2019年度は小学校と生涯学習センターの2か所から授業の依頼があり、翌年の2020年度は6か所、一昨年の2021年度は8か所、昨年は校長会でのPRや募集チラシの全小学校への配布等の広報活動等で18か所と授業実施先が大幅に増えました。受講生の人数もこの4年間で1000名を超える実績となりました。授業内容はテーマを「地球温暖化と再生可能エネルギー」として、講義と再生可能エネルギー模型の発電実験の組み合わせとソーラーカーの模型工作等を盛り込んだ授業の2種を設定しています。発電の模型器材の実験が特に生徒さんに喜ばれております。学校での授業の方も正規授業としての実施の他、放課後子ども教室としての授業依頼が増えています。授業に必要な実験器材等は宇都宮市や民間環境団体からの

助成金を活用していますが、工作に使う材料費や実験器材の増設費用等はセブンイレブン財団からの援助金募集への申請を行っています。また1年生や2年生の低学年向けには、紙芝居の活用や簡単に作ることができ良く回る「かざぐるま」の工作を自分達で考案し授業へ活用しています。

尚、授業終了後に生徒へのアンケートを取り次の授業へ生かしています。

受講生 2000 名達成に向けて活動継続中です。



実験風景



講義風景



工作（ソーラーカー）



【2】 栃木県地球温暖化防止活動推進員への座学

研修の講師依頼対応：私は栃木県地球温暖化防止活動推進員に所属して約10年になりますが、2021年度と2022年度の地球温暖化防止活動推進員の座学研修会の講師を委嘱され、推進員約50名を対象に2021年度は12月の2日間をかけて推進員の活動事例を通じての「効果的な環境活動の普及啓発方法について（伝え方）」、特に実践している小学生への環境出前授業の事例をテーマに講義を仲間3名共同で実施致しました。また、今年度は12月に新しく県の環境部門から展開された「デジタル学習教材を使った環境出前授業の実施要領」についての座学研修の講師依頼を委嘱され、事例を基に推進員25名を対象に研修を実施致しました。

いずれも、小学生を対象とした出前授業の実例を基にした講義の実践研修ですが、環境活動等で物事を相手にうまく伝えることが必要な機会がありますので、情報伝達の重要性をカウンセラーとしても認識する良い機会と捉え前向きに対応しています。



座学研修の受講生（2022年度）



座学研修（2021年度）

【3】 その他のカウンセラー活動

1) 栃木県の最大の環境イベント「ECO テッライフとちぎ」（毎年11月又は12月開催）へのスタッフ参加：

県内の来場の方々へカーボンニュートラルへの取り組みの重要性や COOL CHOICE（家電品等の賢い選択活動）への解説をパネルを使って行った。また来場者による自転車発電で発生した電気でエアポンプを作動させて風船をふくらませて親子連れの子供さんにプレゼントし、環境にやさしい発電の啓発に努めた。



エコ工作（フェイスガードうちわ）



3) 再生可能エネルギー施設バス見学会の企画と運営（宇都宮市 NPO 環境団体のスタッフ活動）：2012年～継続実施）

県内の再生可能エネルギーを活用した施設へ市民を案内する環境啓発活動で10年前から毎年実施。宇都宮市の大型バスを借用し、企画・運営にスタッフ参加を継続実施している。人気のあるイベントです。

2) COOL CHOICE 親子講座へのスタッフ参加（栃木県の活動）：2020年8月

小学生の夏休みを利用した親子学習講座へ参加し、エコかるたやエコ工作（フェイスガイドうちわ）で地球温暖化対策と二酸化炭素削減の必要性を親子で学んでもらった。（毎年開催のイベント）



那須温泉バイナリー発電設備



エコかるた TORI



大谷採石場の冷熱利用温室

編 集

環境カウンセラー全国事務局

〒104-0041

東京都中央区新富1丁目15番14号 相互新富ビル307号室

特定非営利活動法人 環境カウンセラー全国連合会 内

URL: <https://edu.env.go.jp/counsel/>

e-mail : jimukyoku@kankyo-counselor.or.jp

TEL : 03-6280-5345

FAX : 03-6701-7382

